

2015年6月22日
生活協同組合コブみらい

被爆者の声を次世代に継承するため、千葉県在住被爆者の被爆体験をまとめた冊子

『原爆投下後の70年 今、なお』

～今、あなたに伝えたい ヒロシマ・ナガサキ被爆者の声を次世代に～

千葉県内全 54 市町村の中学校・図書館に贈呈

6月26日(金)15時から、千葉市への贈呈式を千葉市教育委員会で開催します

コブみらい（本部：埼玉県さいたま市、理事長：新井 ちとせ、事業エリア：千葉県・埼玉県・東京都）は、コブみらい組合員などが千葉県在住の被爆者 34 名に被爆体験を聞き取り、2015 年 3 月にまとめた冊子『原爆投下後の70年 今、なお ～今、あなたに伝えたい ヒロシマ・ナガサキ被爆者の声を次世代に～』（編集：千葉県原爆被爆者の被爆体験聞き取り活動実行委員会、以下実行委員会）を、千葉県内全 54 市町村の中学校および図書館に贈呈します。

これに先立ち、千葉市への本冊子の贈呈式を、6月26日（金）に千葉市教育委員会教育長室（千葉ポートサイドタワー12階）にて開催いたします。

本冊子は、“被爆体験を後世に語り継いでいきたい”という思いから、コブみらい千葉県エリアで平和の活動に取り組む組合員グループや千葉県原爆被爆者友愛会（以下、友愛会）などで2013年9月に実行委員会を立ち上げました。実行委員会は、これまでの地域での活動のつながりを生かし、友愛会にもご協力をいただき、千葉県在住の34名の被爆者に直接お会いし、被爆体験を聞き取ることができました。

立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長の安齋 育郎氏と女優の吉永 小百合氏に寄稿文・メッセージを寄せていただき、今年3月に冊子にして刊行しました。また、ダイジェスト英語版も作成し、今年の4月から5月にかけてニューヨークで開催されたNPT再検討会議での諸行動にも活用しました。

今回、千葉市教育委員会への贈呈を通して、千葉市内の中学校と図書館に本冊子を贈呈いたします。今後、千葉県内の各中学校と図書館にも順次贈呈いたします。

なお、本冊子の書店での販売はございません。ご購入のお問い合わせは、実行委員会事務局（コブみらい千葉県本部内、電話：043-301-6681 9時～18時・土日祝休）までお願いいたします。



● 千葉市への『原爆投下後の70年 今、なお』贈呈式 開催概要

日時：6月26日（金）15：00～15：30

会場：千葉ポートサイドタワー12階 千葉市教育委員会 教育長室（住所：千葉市中央区問屋町1-35）

出席者：千葉市教育長	志村 修 様
千葉市教育委員会 学校教育部 指導課 課長	伊藤 裕志 様
千葉市中央図書館 館長	松尾 修一 様
千葉市中央図書館情報資料課 課長	元好 正史 様
千葉市教育委員会 学校指導部 指導課 指導主事	樋口 雅也 様
千葉県原爆被爆者の被爆体験聞き取り活動実行委員会	児玉 三智子 様
生活協同組合コブみらい 理事	世良 仁美 様
生活協同組合コブみらい千葉県本部 本部長	鳥羽 治明 様
生活協同組合コブみらい千葉県本部渉外担当部長	石渡 秀嗣 様

『原爆投下後の70年 今、なお ~今、あなたに伝えたい ヒロシマ・ナガサキ被爆者の声を次世代に~』 発刊にあたって

私たちは千葉県で、70年前の原子爆弾投下によって被爆した、被爆者の体験を聞き取る活動に取り組んできました。広島、長崎で被爆したあとに千葉県に転居してきた方、千葉県から広島に派遣され被爆して戻ってきた兵士や学徒動員された方々など、現在約2,600人の被爆者が千葉県には住んでいます。

原子爆弾による史上初めて、唯一の戦争被爆国が日本であることはいうまでもありません。けれども原爆投下に至るまでの日中戦争や太平洋戦争の歴史を振り返ったときに、日本は加害者であったことを忘れることはできません。

時の政府の誤った指導の下で、言論統制やマスコミ操作が行われ、国民の多くはこれらの戦争の正当性を信じ、戦争に反対することができませんでした。そして日本の軍隊は周辺各国に数多くの災禍をもたらしたのです。

どのような戦争であっても、戦争は悲劇を生み出しますが、とりわけ原子爆弾の持つ著しい非人道性をもたらした悲惨な体験から、「ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ、ノーモアウォー」「核兵器廃絶」が戦後日本の平和運動の一致点となりました。それは世界に広がり、このたびのニューヨークで開催される2015年核不拡散条約(NPT)再検討会議にもつながっています。

被爆者の中には、これまで家族にもその体験を話したことがなく、今回の私たちの聞き取り活動によって初めてその体験を語った方もいました。大変恥ずべきことですが、日本には被爆者を就職や結婚の場面などで差別してきた歴史がありました。このようなことが背景にあり、これまで少なくない被爆者が口を閉ざしてきました。しかし、原爆投下から70年が経過した今、勇気をもって自らの被爆体験を語ってくれたのです。

私たち実行委員会では、千葉県原爆被爆者友愛会をはじめ、平和活動に取り組む個人やグループはもとより、コープみらいの組合員が力を発揮しました。生協は「平和とよりよき生活のために」を理念に掲げています。そのことが、今回聞き取り活動をすすめて冊子にまとめるまでに至る原動力となりました。

被爆者からの体験を直接聞き取った私たちは、このことを次の世代に引き継いでいく責任があります。本冊子が多くの若い世代に読んでいただけることを願っています。実行委員会では、これからも本冊子を活用して被爆体験を次世代に語り継ぐ活動に取り組みたいと考えています。また、本冊子のダイジェスト英語版を2015年各不拡散条約(NPT)再検討会議に集まる世界各国の方々にお届けします。

本冊子が、人類の悲願である核兵器廃絶に向けての一助となれば幸いです。

2015年4月

千葉県原爆被爆者の被爆体験聞き取り活動実行委員会

■実行委員会事務局のコメント「生協のお母さんたちが聞いてくださるんだったらお話しします」

「被爆者からの聞き取りがスムーズにできたのは、実行委員会が立ち上がる以前から、コープみらいの組合員グループや友愛会の地道な活動があったからです。聞き取りの中で、『生協のお母さんたちに手で編んだひざ掛けをもらったことがある。今も使っています。生協のお母さんたちが聞いてくださるんだったらお話しします』と仰ってくださった被爆者の方がいらっしやいました。まさにそういう活動の積み重ねがあつてこそ、実行委員会で聞き取りをスタートしたときに、被爆者の方が口を開いてくださったんだと思っています」

《生活協同組合コープみらい 概要》

ちばコープ、さいたまコープ、コープとうきょうは組織合同(合併)し、「コープみらい」になりました

【住 所】埼玉県さいたま市南区根岸1-5-5

【理 事 長】新井 ちとせ (あらい ちとせ)

【組 合 員 数】319万人 (2015年5月20日現在)

【総 事 業 高】3,702億円 (2014年度)

【事業エリア】千葉県、埼玉県、東京都

【ホームページ】<http://mirai.coopnet.or.jp/>